

# エンタイビオ<sup>®</sup>点滴静注用 300mg

エンタイビオ点滴静注製剤による  
治療を受けられる患者さんへ

# エンタイビオ点滴静注製剤による 治療を受けられる患者さんへ

次回投与予定日： \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_曜日

エンタイビオは初回に投与したのち、2回目は2週間後、3回目はその4週間後（初回から6週間後）に点滴します。それ以降は8週間の間隔で点滴します。



2週間

4週間

8週間

以降8週間ごと

投与開始 2週間後  
( / ) ( / )

6週間後  
( / )

14週間後  
( / )

※エンタイビオの投与は、症状の改善や副作用等を考慮しながら決められます。

## 注意が必要な副作用とその症状

エンタイビオの投与期間中に体調の異常などを感じた場合は、すぐに主治医もしくは薬剤師、看護師にご連絡ください。

副作用は早期に発見し、適切な治療をすれば重症化を防ぐことができます。

### 投与中～投与後

#### 過敏症などの注入反応

エンタイビオの投与中、または投与後に息苦しい、じんましんが出る、皮膚が赤くなる、発疹が出る、血圧が変動する、心拍数が増えるなどの症状があらわれることがあります。



息苦しい



じんましんが出る



心拍数が増える

## 投与後

### 感染症

エンタイビオの投与後は、感染症にかかりやすくなる可能性があります。感染症にかかると、発熱、身体がだるい、のどが痛い、鼻水、咳・たんが出る、心拍数・呼吸数が増える、下痢、腹痛などの症状があらわれることがあります。副作用の多くは、風邪や胃腸炎などの軽いものですが、それが重症化する可能性や、肺炎、敗血症、結核などの重い感染症にかかる可能性もありますので、投与後は感染症予防のため、手洗い・うがいを心がけてください。



発熱



鼻水が出る



咳が出る

### 進行性多巣性白質脳症 (progressive multifocal leukoencephalopathy:PML)

PMLは、治療による免疫力低下により、健康な人でも体内にもっているウイルスが活発になり、脳内のあちこちに病巣が作られる病気です。

エンタイビオの国内外の臨床試験では、PMLの報告はありませんが、海外では販売後にエンタイビオの投与によるものであるかどうか明らかでないものの、PMLの発現が報告されています。

PMLの診断にはMRI検査と髄液検査が必要ですが、早い段階でPMLの症状をみつけて対応することで、重症化を防ぐことができます。

下記のような症状を感じた場合、異常がみられた場合はすぐに主治医に連絡してください。

PMLの症状は徐々に進行するのが特徴です。

主な症状:体の片側のまひ、手足のまひ、手足の運動がうまくできない、言葉が出にくい、目が見えにくい、飲み込めない、けいれん、ぼんやりする、忘れっぽくなる、考えがまとまらない

※他の医療機関にかかるときには、医師にエンタイビオを投与していることを必ずお伝えください。

医療機関名・連絡先

数量が少なくなりましたら  
記載されている資材No. (1-5-7264) を  
弊社MRにご連絡ください。



武田薬品工業株式会社